

らすような、あんな残酷なイメージのものとは全く異っているのではあるまいか。何年前かの敬老の日のテレビ放送に、統計による老人の半数以上は、安楽死を希望している旨が発表されていた。平安貴族はその死に当って、阿弥陀のみ手からのばす救いのひもにすがって、極楽往生を願ったと言う。

六所神社内の姥捨ても、平安貴族と同じ願いの老人の集いの場ではあるまいか。孤独な、やもめ暮らしの老人の、慰安所の性格を有した場所とは考えられないだろうか。かつて私は別府市の後藤武夫氏から、別府市効外にも姥捨山のあるという話を聞き、現地に案内してもらったことがある。それは現在の別府市北中町で、松川増夫氏の所有地内で、ここには二基の姥捨塚が存していた由である。今は破壊されて、塚の上に立てられていたと言う自然石二本が祭られているのみであった。鶴見七湯の中の一つの谷湯がここである。名大庄屋の直江雄八郎が、姥捨ての隠れみもの下に、当時しいたげられていた庶民の老人たちへの慰安のために、せめて自由に温泉にでもはいり、楽んでもらおうとした温い思いやりの場所がこの谷湯であったと言う。

お産小屋と言ひ、姥捨山と言ひ、それは婦人を護り、老人

に心の安らぎを与えようとする善意に生れたものである。その根底に通ずるものは、国東の人々が抱いている温い思いやりの心である。なお国東半島には、前述したような浄土思想にもとづく信仰が、明治初年まで見られていたと言う。このことは、国東半島の人々の心の中に、生きつづけて来ている信仰心が、いかに強いものであるかを、ひしひしと知らされる次第である。

(県文化財保護審議会委員・杵築市南台)

中津市角木町の古文書について

中野政喜

当町内は秋の祭り行事が終ると、次の座前に引継がれる当宮というものがある。この当宮の中には

- (1) 座前記録帳(享保二年起稿、明治四年までの記録)
- (2) 豊日別神社書上帳(關無浜竜王社宮司重松義隆が、明治四年十月中津県庁に提出した写しである)

(3) 大神龍豊日別宮縁起(箱に文政十一年六月、蓋には永

享元年九月と書かれている)

以上、三冊が保存されている。

(1) の座前記録帳は、享保二年(一七一七)奥平昌成が中津藩に入国した年であるが、その年の六月、祭礼の道順や、十一月秋祭りにおける種モミの申し送りなどが書かれている。以下毎年、祭礼の日程や出し物の模様、秋祭りの座前引継ぎの人名等が記されている。寛政二年(一七九〇)の大日照。

文政十二年(一八二九)六月雷大暴^レ二の丸、落雷、御上様雷御嫌ノ様子、八大竜王^ニ祈願、夫^ハ次第^ニ雷移^ル。

嘉永六年(一八五三)角木町大火、等々。中でも元治二年(一八六五)長洲征伐で中津藩の出兵模様が詳しく書かれ、その項の末尾に、「三ヶ年間神楽相止申候^テ々淋事筆紙盡難候穴賢、右之通当年之有事共荒々^シ御記置申候後日爲件如」とあり、公儀政治のために書かれた藩政史料とは異なり、町民が当時の世情と庶民の生活を書いた記録は、郷土史として興味深いものである。

(2) の豊日別宮書上帳は、表紙に「豊日別宮八幡義氏官并来社、豊日別宮神社書上帳」とあり「旧豊日別宮閻無浜神社

旧八幡義氏宮丸山神社、重松家系略書、県庁へ書上タルモノ」となっている。

豊前国下毛郡大家郷玉握荘倉無浜神社鎮座祭神、社殿、社地面積、由来、撰社、未社、及びその祭神、神官の位階と家系世代を、中津彦雄から明治四年五二代重松義隆までの人名が連続として記されている。

(3) の大神龍豊日別宮縁起は「豊前ノ國中津之初、人王第一代神日本磐余彦天皇、後胤中津彦雄ト云者、初之名国津彦雄ト云中津居住後中津彦雄ト云、日向国方来テ此ノ地北浜ニ座ス、老人来リテ告グ汝知不ヤ、此ノ地ノ河水纒テ朝夕潮サカノボリ湛テ清浄ナル処、豊日別國魂神姫大神垂迹ノ地其処中津川東岸ナリ云云」とあり、これは、宇佐菱形池に鍛冶の翁がいた八幡神の発現によく似たことが書かれている。

以上、角木町の古文書について簡単に述べたが、当町内は閻無浜神社の次官(神職が祭神に対する祭祀者であれば次官「地願」は神職家より以前から在地の祭祀集団)である関係から、このような記録が残されているものと思う。